



議会図書室からのお知らせ

『地方議員のための選挙トリビア～選挙をめぐるあれこれ』

選挙

河村和徳【著】/中央文化社 (2024/9)



「ネット投票」「議員のなり手不足」「災害時の選挙方法」「高齢時代の投票」など、地方議員向けに、選挙制度の問題点をわかりやすく解説。「統一地方選の振り返り」「韓国との比較から考える地方議会のデジタル化」など、最近の気になる動向も幅広く掲載。

『光と影のTSMC誘致』

企業誘致

深田萌絵【著】/かや書房 (2023/10)



雇用の増加など、経済面でのメリットが期待される「地方都市への企業誘致」。しかし、環境汚染や人体への健康被害などのデメリットも懸念されている。熊本県の外資半導体メーカーTSMC誘致による「影の部分」を指摘し、その問題点に切り込む。

『新消費をつくるα世代～答えありきで考える「メタ認知力」』

マーケティング

小々馬敦【著】/日経BP (2024/5)



Z世代に続く「α世代」。彼らが社会の中心に躍り出る「2030年」の消費傾向と社会像はどうなっているのか？ AIネイティブでありながら、SNSやデジタルツールの弊害も知っている「α世代」の価値観や消費行動を分析し、いち早く予測する！

『「多様性時代」の人権感覚～事例に学ぶ人権ノート』

人権

澤田省三【編著】/花伝社 (2024/7)



えんざい
DV、いじめ、共同親権、過労死、冤罪などの「人権問題」に、私たちはどう向き合えばよいのか。ジェンダーギャップをはじめ、いまだ遅れを指摘される日本人の人権感覚。職場、教育現場、家庭、それぞれに合った「人権感覚」をアップデートできる本。

『日本一の農業県はどこか～農業の通信簿』

農業

山口亮子【著】/新潮社 (2024/1)

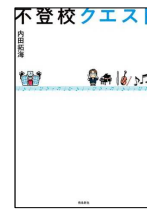


日本全国の農産物の売り上げ額を予算で割り、「コスパ」を算出してランキング。すると「都道府県魅力度ランキング下位常連組」が最強の農業県という意外な実態が浮かび上がった！「コスパ最高の農業は群馬にあり」と著者は語る。

『不登校クエスト』

エッセイ

内田拓海【著】/飛鳥新社 (2024/10)



6歳で自ら「学校に行かない！」と宣言し、ホームスクーラーとなった作曲家 内田拓海氏による自伝的エッセイ。生きづらさに苦しむ子ども自身はもちろん、教育や学校との向き合い方に悩む親の背中も押してくれる1冊。

『DD(どっちもどっち)論～「解決できない問題」には理由がある』

社会

橘玲【著】/集英社 (2024/8)



面倒な問題をともに議論しないメディアへの信頼感は失われ、SNSでは互いに交わることのない「真実」や「正義」が叫ばれる。そんな現代にこそ必要な、単純な善悪二元論から距離を取る「DD(どっちもどっち)」思考で、社会問題に斬り込む！

『ネットリンチが当たり前の社会はどうか？』

SNS

仲正昌樹【著】/KKベストセラーズ (2024/9)



SNSでは、「友/敵」思考が蔓延・過激化し、誹謗中傷が日常と化している。敵を破壊し尽くさないと気が済まない人のあふれる世界はどうなってしまうのか？ 身近な問題・事件を題材に、私たちの陥りやすい思考の危うさや現代社会の闇に立ち向かう。

『北欧、幸福の安全保障～スウェーデン・フィンランドの選択』

海外事情

近藤浩一【著】/水曜社 (2024/5)



豊かな社会と手厚い福祉の国スウェーデンとフィンランドが、ウクライナ戦争により長年の中立政策からNATO加盟という大転換に至った。国家安全保障環境が激変する中、暮らしと社会はどう変わるのか？ スウェーデン在勤の著者による現状報告。

▶「温泉文化」に関する書籍

新着

『もう、ひなびた温泉しか愛せない』

岩本薫【著】/みらいパブリッシング (2024/2)



そもそも温泉とは何か？ シンプルに言えば「水源」「熱源」「成分」の3つから成るもの。そんな基本情報をはじめ、地質学的観点から見た温泉の魅力、泉質の違い、温泉街の文化など、温泉文化の一步踏み込んだ魅力がわかる。

『心身と地域を元気にするウェルネスツーリズム』

関口陽一【著】/KINZAIバリュー叢書 (2022/12)



傷病治療に適した泉質の温泉を利用した療養プログラムなど、国内外の様々なウェルネスツーリズムを紹介。ウェルネスツーリズムを活用した温泉文化振興の参考となる1冊。

『都市問題 2024年11月号 ～特集：温泉と自治』

(公財)後藤・安田記念東京都市発行所 (2024/11)



日本には、2万7,932個の源泉、2,879もの温泉地がある。人々を惹きつけ続ける温泉とその地域社会・住民との関わりについて「自治」を切り口に考察する、月刊誌の特集記事。

『全国温泉大全～湯めぐりをもっと楽しむ極意』

松田忠徳【著】/東京書籍 (2022/11)



ガイドブックでは語り尽くせない、本物の温泉の魅力がいっぱい。4,000以上の温泉に浸かった「温泉教授」による、温泉愛あふれる本。宿探しから入浴作法、温泉街での外湯巡りや土産紹介など「温泉場」を楽しむ極意が満載！



図書広報委員がおすすめする一冊

『人新世の「資本論」』



著者：斎藤幸平/集英社
(2020年9月)



紹介者：栗野 好映 委員
つる舞う・安中市選出・1期

1枚目をめくると、見出しに『はじめに—SDGsは「大衆のアヘン」である！』とある。何と衝撃的な書き始めだろうか！？世界中で取り組んでいるSDGsを…である。

しかし、読み進めていくと人類の経済活動があまりにも大きなダメージを地球に与えてきた「人新生^{ひとしんせい}」において「持続可能な開発」は可能なのかと思い知らされる。そして、「脱成長」の道しかないのだと説く。それには「コモン」（意味は本書で…）が重要な意味をもつと著者は言う。

「人新生」はどのような時代になるか、地球環境、経済社会、自らの日々の過ごし方に。読んでよかった本です。

次号では、松本 基志 委員におすすめしていただきます！



議会事務局政策広報課（議会図書室）